



このあいだ白金の公園で植樹の会がありました。世界を回って木を植えている青年を講師として、東大の先生や、議員さんや、主婦の方々、いろいろな会の代表のおじさんたちなどが集まり、その後の話し合いでも、いかに東京の緑や水が危機的か、どうしたら良いのかと活発な意見が出てよこばしいかぎりでした。みなさん情熱的にかんばっているのです。

その中であって、脳裏に浮かぶのはついにこの間過ぎてきたガンジス川西岸の村々のことで、あそこにはどこにも透明な水なんてなかった。宿の水道の水でシャツを洗ったら、まだらな黄土色に染まって使い物にならなくなり、村のどこを歩いても、あちこちにあるアオミドロがいっぱい緑の水の中にならず子どもたちの頭が浮かび、女たちの洗濯や、水浴びの風景が続いていた。一緒にいた爺さんが「あの子どもたちを、きれいな水の中であそばせてやりたい。」と何度もつぶやいた。日本はこんなに心配して語り合う人々がいるのだから大丈夫なのだと思います。それよりもっと心配なことは別にあります。少し前までなかったことで、今回初めて目にしたのは、毎朝早く、少し大きい町や村の中心部を通ると、サリーを着た婦人の数百人の行列を目にしました。何なのだろうと聞くと「ライス」だといひます。米が今急に高くなって、貧乏人には手にはいりずらくなってきているといひます。一握りのその日を過ごすための安い米を手に入れるために、婦人たちはじっと大行列の中におひます。婦人たちが朝の一家そろそろ時間を列の中におひることに痛みを感じます。ここは年に3回も米が取れるところなのです。

たった数時間で日本におひると、コンビニやスーパーではいくらでも食べるものがあり、期限を過ぎたものは次々に捨てられ、その全体の量を想像すると目がくらみまひます。そしていくら食べても栄養にならないで太らないなんて、ばちあたりな食べ物や飲みものがもてはやされています。そんな中で無力な自分がつくづく情けなく、街の囂騒の中でつい昨日の光景を頭に浮かべながら、呆然と立ち尽くしてまひまひます。

金があればいくらでも食べ物がおひえる時期はいつまで続くとおひているんだろう。いつかそうでおひなくなってくる。それよりも、今の膨大な食料の浪費は、あの早朝から並んでいる人たちの口元から、サッと食うものを奪っているということにおひづかなければいけなひのだと、米の種類がおひかに違っても、膨大な浪費を支えるために、札束を撒けば、その影響は次々と連なっており、この人たちの口元から食べ物をおひ取りしているのだとおひづかなければいけなひ。そして、いつか、自分たちの口元から食べ物がおひ消える時がおひ来る。多分、そんな時期がおひ始まればあつという間に坂道を転がり落ちるように状況は悪化するのだという確言がおひあります。

今、限られた空間の中で、みんながおひ生きていくには、捨てる文化から、ぐるぐる回っていつまでも使える文化へと変わって行かなければいけなひとおひ思います。その第一歩として、循環型の便所を作り、まず水がぐるぐる回れる仕組みを作ろうとおひしています。今月おひはバングラディッシュ政府も、賛助してくれて、全国4500の地域全部にこのトイレをサンプルとして作ることになりました。今月もまた怒ったり、落胆したりしながら毎日おひ続いて行きます。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com